平成27年度 社会を明るくする運動
最優秀作品の紹介

７月は『社会を明るくする運動』強調月間でした。この行事の一環として、児童・生徒の皆さんへ作文を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、受賞作品が決定しましたので、優秀・最優秀賞を受賞した作品を紹介します。

（最優秀賞のみ全文掲載）

最優秀賞　小学校の部

「みんなで助け合う」

綾木小学校　６年　伊藤　希

私が今の生活の中で「社会を明るくする運動」として思いつくものが三つあります。

一つ目は、募金活動です。集められた募金は世界中の困っている人に役立ちます。私は募金活動に数回参加したことがあります。募金活動はいろいろなことを教えてくれます。例えば、私がスーパーに行った時、そこにあった募金は、あるどこかの国に学校をつくりたいというものでした。その時初めて知ったことがあります。それは、「学校はどこにでもあるものじゃない。」ということです。私は、それを知るまで、「学校はどこにでもある。」と思っていました。ある国の子供達のために活動しているユニセフというものがあります。日本だけでなく、世界のみんなで救っているのがすごいと思います。募金は、世界で困っている人の笑顔を取りもどせる力があります。たったの一円を募金に入れるだけでもみんなの役に立てるので、募金活動は私達にもできることで、社会を明るく出来る運動の一つだと思います。

二つ目は、あいさつです。あいさつは人との関係が深くなれる言葉だと思います。あいさつをすると、自分も相手もとてもすがすがしく一日を迎えられて、気持ちが良くなって何にでもがんばれそうな気がします。

あいさつは、自分を成長させる言葉でもあると思います。なぜなら、自分からあいさつをするのははずかしいという人もいるかもしれません。でも、自分から言えると、自分が少し大きくなったように思えます。

あいさつは、みんなを笑顔にできる言葉だと思います。私も、登校中や下校中は地域の人や友達にあいさつを自分からするように心がけています。みんなであいさつができたら、きっと社会が明るくなると思います。

三つ目は、小さな心づかいです。もし、お年寄りの方が階段で困っているとします。その時、どうすればいいでしょう。ここで小さな心づかいが活躍します。お年寄りの方に手をさしのべるだけでも、小さな心づかいです。「ありがとう」とお礼を言われると、とても嬉しい気持ちになると思います。しかし、私はまだそのような心づかいをしたことがありません。もしかしたら、身の回りに困っていたかたがいらっしゃったのに、気づいていなかったのかもしれません。

私は目の前だけではなく、左右もみることが大切だと思います。ある日、地域の人が自転車のかぎをなくしてしまったのに出会って、一緒にさがしてあげた人がいました。私はその時、すごいなぁと思いました。なぜなら、人を助けてあげたくても、その「始めの一歩」でつまずくからです。私は、自分から人に話しかけるのはすごく苦手です。でも、お年寄りの気持ちになれば、私もできるかもしれません。勇気も大事だと思います。そういう小さな心づかいで、みんな嬉しい気持ちになっていきます。だから、「小さな心づかい」も社会を明るくできると思います。

私は、この作文を書くまで「社会を明るくすることは難しい」と思っていましたが、社会を明るくできることは、案外身近にあることがわかってきました。ものすごく小さな事でも人が嬉しいと思うことは、全て人を明るくできると思います。

私たち一人一人が、毎日の小さな場面で小さな心づかいをしていけば、それが積み重なり広がって、少しずつ社会が明るくなっていくと思います。自分を成長させるためにも、自分が楽しく幸せに生きていくためにも、小さな勇気と心づかいをしていきたいと思います。また、身の回りだけでなく世界を明るくするためにも、募金活動にも積極的に参加していきたいと思います。そうして、「みんなで助け合う」ことが、社会を明るくしていくために一番大切なことではないかと思います。

最優秀賞　中学校の部

「明るいニュースにするために」
厚保中学校　３年　矢部　大智

私は今まで社会について考えたことがほとんどありませんでした。まだ子どもだし大人が考えてくれるだろうと思っていたからです。だからこの作文を通して社会について考えていこうと思いました。

まず、毎日のように流れているニュースには、殺人事件や国と国との争いなどが絶えず伝えられています。一方でボランティア活動や国と国との交流なども同時に伝えられています。私は暗い出来事を取り除けば明るい出来事が残り明るい社会になると考えました。では、どうすれば暗い出来事を取り除けるのでしょうか。

それは昔のように人と人とが密接に関わりあってコミュニケーションをとることが大切だと思います。私の親が子どものころは、近隣との関係がとても深かったそうです。相手が困っているときは助けてあげ、逆に自分が困っている時は助けてもらっていたそうです。このような「お互いさま」の気持ちや、地域の方との絆があったからこそ昔はみんな明るく犯罪や非行がほとんどなかったのではないかと思います。

コミュニケーションをとる一番簡単な方法は「あいさつ」をすることです。私の地域では子どもからお年寄りまでがよくあいさつをすると思います。あいさつをするとその後会話になり、ついつい話し込んでしまうこともあります。その会話はほんのささいなことでも、地域の方とつながっていると実感できるので安心感が得られます。

私がいつも通学をするときに出会うと、大きな声であいさつをして下さるおじさんがいます。そのおじさんはいつも笑顔で「いってらっしゃい」と言って下さいます。ある日私の学校の生徒の自転車にひもがひっかかって動かなくなってしまったことがありました。そんなときにそのおじさんがやってきて、「どうしたんか」と話しかけてきて下さいました。そしてわけを聞いたおじさんは黙々と手を汚しながら直して下さりました。その後はいつもの笑顔に戻り、気をつけてと言って去っていきました。その姿を見て私は、自分も何のためらいもなく人を助けられるようになりたいと思いました。他にも私の地域は、人が通ればあいさつをするとてもよい町だと思っています。

社会を明るくするためには、やはり家族との関係も切っては切り離せない存在だと思います。私は毎週日曜日にサザエさんを見ています。ある日私はサザエさんを見ているときに、なぜサザエさんは四十年以上も放送できるのかを考えたことがあります。そのときの私の考えは、見ていて明るくなったり、心があたたかくなったりするからだと思いました。なぜかというと、サザエさん一家は全員で食事を食べたり話をしたり、時には怒鳴られたりと今の社会で失われてきていることがあるからです。私の家族は全員で食事をすることは少ないけど、休日などの一緒に食べられるときは全員で食べるようにしています。一緒に食べると、会話が弾み和やかな雰囲気になりとても楽しいです。このような家族との時間を大切にしながらいつまでも全員で食事をしていようと思います。

社会を明るくするために色々な方法があると思ってきましたが、全てに共通することは「孤独」にさせないということです。コミュニケーションをとることもあいさつをすることも家族で過ごすことも全て一人ではできません。ですが今の社会は、インターネットや携帯電話の普及につれて一人で過ごすことが多くなったり、外出しなくなったりと人と直接的に関わらずにメールや電話などの間接的に関わることが多いように思います。だけどあいさつをすれば必ず誰かが返してくれるので「孤独」を感じることはないと思います。

「日本は豊かだが貧しい国だ」という言葉をテレビで聞いたことがあります。お金はたくさん持っているし豊かだけど他人のことなど全く考えない貧しい心をもっている国という意味だそうです。今、私たちに必要なのは思いやりや相手を尊重する心だと思います。もうこんなことを言われないためにも、これから私たちの手で身近な地域からかえていきたいと思います。

優秀賞

小学校の部

嘉万小学校６年　井内田　昂樹
「後悔したから　わかったこと」

赤郷小学校６年　藤井　基貴
「社会を明るく　するために」

中学校の部

秋芳北中学校２年　森永　暉大
「自分の手で作る地域」

秋芳北中学校２年　中本　朱音
「三つの力と少しの勇気」

問合せ先　地域福祉課〔☎0837(52)5228〕